様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３４３１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０４７１７

研究課題名（和文）教職課程履修学生の動機づけと職業アイデンティティ発達に関する縦断的研究

研究課題名（英文）A longitudinal study on the motivation and professional identity development of students taking teacher-training courses.

研究代表者
田中　希穂（Tanaka, Kiho）

同志社大学・免許資格課程センター・教授

研究者番号：４０３９９０４３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：大学の教職課程の初期段階における志望理由や履修動機が教師効力感や教師アイデンティティの変化の予測因となることが明らかとなった。特に，教職課程の初期の段階から，子どもとの積極的なかかわりを通した子どもとの関係性構築や教職・教育の社会的意義の認識を促進する支援を積極的に大学が行うことが，教職課程への自律的な動機づけの促進や教師として必要な資質能力向上につながる。早期の実習経験の必要性も示唆された。これらの結果を反映し，教職課程履修状況や学習状況を記録するｅポートフォリオにおいて教職志望理由・履修動機および各学年における教師としての資質能力の獲得程度を可視化するような改修に取り組む。

研究成果の学術的意義や社会的意義
教職課程登録初期，各種実習実施前，および各種実習実施後の横断的・縦断的分析の結果，教職課程の初期段階における志望理由や履修動機が教師効力感や教師アイデンティティの変化の予測因となることが明らかとなった。これらの結果を反映し，教職課程履修状況や学習状況を記録するｅポートフォリオにおいて教職志望理由・履修動機および各学年における教師としての資質能力の獲得程度を可視化につながる。このようなeポートフォリオの構築は，教職課程履修学生への効果的な支援につなげることができ，教員養成課程の質向上において大きな意義があると考える。

研究成果の概要（英文）：It has been revealed that the reasons for aspiring to a teaching career and the motivation for taking teacher-training courses in the early stages of a university are predictive factors for changes in teacher-efficacy and teacher-identity. Specifically, it is important for universities to actively support the development of relationships with children and promote the recognition of the social significance of teaching and education from the early stages of the teacher training program. This support contributes to fostering autonomous motivation for the teacher-training course and improving the necessary qualities and abilities of teachers. The importance of early practical experience has also been suggested. Based on these findings, efforts are being made to revise the e-portfolio, which records the status of teacher-training and academic-learning, to visualize students' motivation and the acquisition level of abilities as a teacher.

研究分野：教育心理学

キーワード：教職課程　動機づけ　教師効力感　教師アイデンティティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

新たな知識や技術の活用により社会の進歩や変化のスピードが速まる中，教員の資質能力の向上は重要な課題であり，世界の潮流でもある。一方，近年の教員の大量退職・大量採用の傾向は今後数年内に落ちつき，新卒採用者数は減少に転じると予測される。このような状況において，大学の教職課程には，教員としての必要な資質能力を身につけた教職志望の優秀な人材を育成するために，教職課程の改善・充実に向けた更なる取り組みが求められる。

そこで，大学の教職課程では，教師としての資質能力の基礎を培うだけでなく，学生を教職へと突き動かす原動力となる教職志望意識を形成することが必要である。そのような動機は教師効力感や教師としての職業的アイデンティティの発達に影響する。したがって，教職課程履修学生の教職への意志や動機を把握し，教職関連講義や実践実習を通した教員としての資質能力の獲得過程との関連を明らかにすることは，大学の適切かつ効果的な支援や介入を可能とし，優秀な人材育成を目指した改善策の指針提供が可能になると考える。

２．研究の目的

本研究の目的は，教職課程を履修する学生を対象に，教職に就くことや教職課程を履修することに対する意志や動機，教師としての資質能力の発達過程を把握することによって，大学の教職課程における学生への適切かつ効果的な支援・介入体制を構築することである。そのために，学生の教職志望理由・教職課程履修動機と教師効力感・教師アイデンティティについて，在学 4 年間にわたり縦断的に調査し，動機や資質能力の発達過程を明らかにする。さらに教育現場での実践実習等が学生の変化におよぼす影響を検討する。教職に就いた卒業生への追跡調査も実施する。分析結果を e ポートフォリオに効果的に反映させ，大学の教職課程における学生への効果的な支援体制を構築する。

３．研究の方法

（１）調査対象者

4 年制大学において教職課程を履修している学生を対象に，毎年各学年の年度末に調査を継続的に実施した。1 年生は教職課程に本登録をする時期，2 年生は介護等体験実習前の時期，3 年生は教育実習前の時期，4 年生はほぼすべての科目履修・実習が終了している時期であった。調査は毎年継続的に実施した。

（２）　調査内容

4 つの尺度のすべての項目に 6 件法で評定を求めた。初回調査参加者 442 名（男性 230 名，女性 206 名，不明 6 名）を対象に各尺度の因子分析（プロマックス回転，最尤法）を実施し，下位尺度を作成した。

教職志望理由尺度　藤原（2004）の教職志望動機尺度のうち 1 項目を削除，1 項目を追加した 14 項目を用いた。子ども好きや性格が向いているなどの「内的理由」，親や教師・知人に勧めらたなどの「外的理由」，教師への憧れなどの「職業的憧れ」，教師が社会的に重要な職業であるとの認知などの「職業的価値」を下位尺度とした。

教職課程履修動機尺度　Black & Deci（2000）の Learning Self-Regulation Questionnaire の 12 項目を日本語に翻訳し，教職課程履修学生に適した表現に修正したものを用いた。内発的動機づけを示す「自己成長」，外発的動機づけを示す「他者承認」と「成績不安」を下位尺度とした。

教師効力感尺度　Schwarzer，*et. al.*（1999）の Teacher Self-Efficacy Scale の 10 項目を日本語に翻訳し用いた。生徒への指導や親への対応に関連した「生徒指導への効力感」と教育的取り組みの実践や問題への対応に関連した「課題対処への効力感」を下位尺度とした。

教師アイデンティティ尺度　松井・柴田（2008）の職業的アイデンティティ尺度の 16 項目を用いた。「明確な教師像」「教師としての存在価値」「教師としての社会貢献」「教師としての継続性」を下位尺度とした。

４．研究成果

（１）教職課程履修における学年間の差異

1 年生 142 名，2 年生 115 名，3 年生 175 名を対象に，学年間の差を検討するために，1 要因の分散分析を行った（表 1）。その結果，教職志望理由の「内的理由」は 1 年生よりも 3 年生が高く，「外的理由」は 1・2 年生よりも 3 年生が低かった。外発的な履修動機の「他者承認」と「成績不安」は 1・2 年生よりも 3 年生が低かった。教師効力感の「生徒指導への効力感」および教師アイデンティティの「教師としての存在価値」と「教師としての社会貢献」は 1 年生よりも 3 年生が高かった。

表1　1･2･3年生の各尺度の平均値〔*M*〕，標準偏差〔*SD*〕，およびF値

尺　度		1年生	2年生	3年生	*F*値
教師志望理由					
内的理由	*M*	3.77 a	4.03 ab	4.22 b	5.79 **
	〔*SD*〕	(1.22)	(1.24)	(1.14)	
外的理由	*M*	2.69 b	2.70 b	2.26 a	7.03 ***
	〔*SD*〕	(1.25)	(1.31)	(1.08)	
職業的憧れ	*M*	4.09	4.01	4.09	0.17
	〔*SD*〕	(1.27)	(1.37)	(1.36)	
職業的価値	*M*	3.19	3.34	3.27	0.62
	〔*SD*〕	(0.99)	(1.08)	(1.13)	
履修動機					
自己成長	*M*	4.49	4.53	4.65	1.36
	〔*SD*〕	(0.85)	(0.94)	(0.94)	
他者承認	*M*	3.01 b	3.01 b	2.73 a	4.24 *
	〔*SD*〕	(1.03)	(1.09)	(0.97)	
成績不安	*M*	3.21 b	3.30 b	2.81 a	7.18 ***
	〔*SD*〕	(1.13)	(1.20)	(1.30)	
教師効力感					
生徒指導への効力感	*M*	3.83 a	3.96 ab	4.12 b	4.98 **
	〔*SD*〕	(0.94)	(0.81)	(0.78)	
課題対処への効力感	*M*	3.80	3.85	3.98	1.79
	〔*SD*〕	(0.93)	(0.92)	(0.90)	
教師アイデンティティ					
明確な教師像	*M*	4.02	4.16	4.25	1.77
	〔*SD*〕	(1.07)	(1.12)	(1.11)	
教師としての存在価値	*M*	3.59 a	3.75 ab	3.89 b	4.02 *
	〔*SD*〕	(0.91)	(1.02)	(0.94)	
教師としての社会貢献	*M*	4.52 a	4.71 ab	4.87 b	6.12 **
	〔*SD*〕	(0.95)	(0.91)	(0.89)	
教師としての継続性	*M*	3.04	2.99	3.22	1.19
	〔*SD*〕	(1.19)	(1.39)	(1.57)	

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

（2）教職課程登録時の動機づけが１年後の教師効力感・教師アイデンティティに及ぼす影響

１年時および１年後の２年時の両調査に参加した33名を対象に，１年生から２年生における変化を，*t* 検定を用いて検討した（表2）。その結果，教師アイデンティティの「教師としての継続性」にのみ有意な差があり，１年時よりも２年時が低かった。

次に１年時の教職志望理由と教職課程科目履修動機と１・２年時の教師効力感・教師アイデンティティとの関連を検討した（表3）。その結果，１年時の教職志望理由の「内的理由」は，２年時の「生徒指導への効力感」および「教師としての存在価値」と「教師としての継続性」と正の相関があり，「職業的憧れ」は，２年時の「生徒指導への効力感」および「明確な教師像」と「教師としての社会貢献」と正の相関があった。教職履修動機の「自己成長」は教師アイデンティティの「教師としての社会貢」と正の相関があった。

表2　1･2年生の教師効力感･教師アイデンティティの平均値〔*M*〕，標準偏差〔*SD*〕，および*t*値

尺　度	学年	*M*（*SD*）	*t*値
教師効力感			
生徒指導への効力感	1年生	3.98 (0.83)	0.31
	2年生	4.03 (0.85)	
課題対処への効力感	1年生	3.87 (0.89)	0.53
	2年生	3.75 (0.81)	
教師アイデンティティ			
明確な教師像	1年生	4.18 (1.08)	1.44
	2年生	3.83 (1.20)	
教師としての存在価値	1年生	3.79 (0.67)	0.07
	2年生	3.80 (0.78)	
教師としての社会貢献	1年生	4.69 (1.03)	1.06
	2年生	4.88 (0.83)	
教師としての継続性	1年生	3.30 (1.17)	2.41 *
	2年生	2.80 (1.50)	

* $p<.01$

表3　1年生の動機づけ要因と1･2年生の教師効力感･教師アイデンティティの相関

尺　度	教職志望理由				教職課程科目履修動機		
	内的理由	外的理由	職業的憧れ	職業的価値	自己成長	他者承認	成績不安
1年生							
教師効力感							
生徒指導への効力感	.12	-.24	.38 *	.10	.37 *	-.10	-.15
課題対処への効力感	.29 †	.01	.57 ***	.20	.21	.10	.05
教師アイデンティティ							
明確な教師像	.48 **	-.15	.48 **	-.09	.09	-.15	-.03
教師としての存在価値	.49 **	-.03	.42 *	.29 †	.34 †	.27	.10
教師としての社会貢献	.29	-.36 *	.48 **	.09	.50 **	-.04	.10
教師としての継続性	.34 †	-.34 †	.43 *	.22	.07	.03	-.04
2年生							
教師効力感							
生徒指導への効力感	.34 †	-.25	.34 †	.21	.17	-.04	-.20
課題対処への効力感	.23	.15	-.06	-.04	-.21	.10	-.11
教師アイデンティティ							
明確な教師像	.25	-.08	.31 †	.19	-.07	-.04	.01
教師としての存在価値	.58 ***	.02	.16	.21	.00	.24	-.16
教師としての社会貢献	.01	-.15	.30 †	.13	.39 *	.09	.02
教師としての継続性	.34 †	-.31 †	.20	.18	-.05	.04	.02

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$

（3）教職課程前半終了時における動機づけと教師効力感・教師アイデンティティの関連

2 年生 115 名を対象にパス解析を行った（図 1）。その結果，教職志望理由の「内的理由」が，直接的あるいは内発的な履修動機を介して間接的に教師効力感や教師アイデンティティと関連した。「職業的価値」は，内発的動機づけを介して教師効力感やアイデンティティと関連したが，一方で不適応的な過程と関連するとされる外発的な動機づけとも関連した。

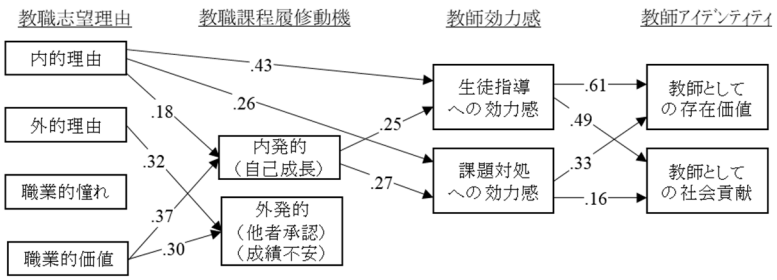

図1 2年生の動機づけ要因と教師効力感・教師アイデンティティの関連
（数値はすべて5%水準でに有意）

（4）教職課程前半の動機が課程修了時に及ぼす影響

2 年時および 2 年後の 4 年時の両調査に参加した 54 名を対象に，2 年時の動機づけの状態の差異が，教師効力感・教師アイデンティティの変化に及ぼす影響を検討した（表 4）。2 年時の教職履修動機をクラスタリング変数としたクラスタ分析（Ward 法）の結果，「成績不安」が高い群（クラスタ 1），「他者承認」が高い群（クラスタ 2），「成績不安」「他者承認」が低い群（クラスタ 3）が抽出された。群ごとに教師効力感と教師アイデンティティの 2 年時と 4 年時の得点を t 検定を用いて比較した結果，クラスタ 1 では，「課題対処への効力感」の得点が有意に上昇し，クラスタ 2 では「生徒指導への効力感」が有意に低下した。クラスタ 3 では，「生徒指導への効力感」「課題対処への効力感」，教師アイデンティティの「教師としての存在価値」が有意に上昇した。

表4 各クラスターの履修動機・教師効力感・教師アイデンティティの平均値

尺度		調査時期	Claster1 *M* (*SD*)	Claster1 *t*値	Claster2 *M* (*SD*)	Claster2 *t*値	Claster3 *M* (*SD*)	Claster3 *t*値	*F*値
動機	自己成長	2年次末	4.38 (0.97)		4.70 (0.93)		4.48 (1.07)		0.48
	他者承認	2年次末	2.56 (0.67)		3.93 (0.82)		2.35 (0.98)		18.9 ***
	成績不安	2年次末	4.72 (0.86)		3.89 (0.68)		1.80 (0.77)		70.85 ***
効力感	生徒指導への効力感	2年次末	4.13 (1.02)	0.54	4.57 (1.01)	2.69*	4.10 (0.73)	4.02**	
		4年次末	4.27 (1.00)		3.89 (1.27)		4.80 (0.66)		
	課題対処への効力感	2年次末	3.49 (0.95)	2.65*	4.01 (0.76)	1.10	3.75 (0.78)	2.92**	
		4年次末	4.10 (0.78)		3.73 (0.93)		4.25 (0.82)		
アイデンティティ	明確な教師像	2年次末	4.19 (1.10)	0.08	4.17 (1.17)	0.54	4.15 (1.27)	1.47	
		4年次末	4.17 (1.17)		3.98 (1.21)		4.43 (1.23)		
	教師としての存在価値	2年次末	3.70 (1.27)	1.05	4.06 (1.08)	0.37	3.53 (1.04)	2.92**	
		4年次末	4.01 (0.89)		3.95 (1.00)		4.08 (1.07)		
	教師としての社会貢献	2年次末	4.65 (1.09)	0.74	4.74 (1.07)	0.83	4.71 (0.93)	1.26	
		4年次末	4.90 (1.01)		4.48 (1.45)		4.98 (0.60)		
	教師としての継続性	2年次末	2.84 (1.47)	1.15	3.61 (1.42)	1.71	2.68 (1.24)	0.07	
		4年次末	3.31 (1.41)		2.92 (1.50)		2.70 (1.55)		

* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

（5）教育実習の経験が及ぼす影響

3 年時および 1 年後の 4 年時の両調査に参加した 93 名を対象に，教育実習前の教職課程への動機づけ要因が教育実習後の教師効力感や教師アイデンティティにおよぼす影響を検討した（表 5）。その結果，3 年時の教職志望理由と教職課程履修動機を独立変数，4 年時の教師効力感と教師アイデンティを従属変数，3 年時の教師効力感と教師アイデンティを統制変数とした重回帰分析を行った。教職志望理由の「内的理由」は教師アイデンティティの「教師としての社会貢献」と関連した。「職業的価値」は，「課題対処への効力感」と職業的アイデンティティの「教師と

表5 3年生の動機づけが4年生の教師効力感・教師アイデンティティに及ぼす影響

独立変数＼従属変数	教師効力感 生徒指導	教師効力感 課題対処	教師アイデンティティ 教師像	教師アイデンティティ 存在価値	教師アイデンティティ 社会貢献	教師アイデンティティ 継続性
教師志望理由						
内的理由	.19	.05	.15	.13	.26 *	-.05
外的理由	.01	.20	.06	-.03	-.06	-.04
職業的憧れ	.07	.09	.03	.05	.19	-.12
職業的価値	.17	.24 **	-.03	.33 **	.35 **	.17 *
教職課程履修動機						
自己成長	-.27 *	-.15	-.20	-.20	-.13	-.19 *
他者承認	.13	-.03	.12	.04	.03	.08
成績不安	-.02	-.08	-.01	-.10	.02	-.23 **
統制変数	.19	.36 ***	.51 ***	.46 ***	.12	.83 ***
R^2	.12	.27 ***	.33 ***	.37 ***	.27 ***	.66 ***

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

しての社会貢献」・「教師としての存在価値」・「職業としての継続性」と関連した。「自己成長」動機は,「生徒指導への効力感」と教師アイデンティティの「職業としての継続性」と,「成績不安」は「職業としての継続性」とネガティブに関連した。

（6）考察

教職を目指す学生は学年が上がるにしたがって，外発的な動機ではなく内発的な動機が促進され，教師効力感や教師アイデンティティも発達させる傾向がみられた（1)。縦断的データを用いて個人内変動を検討した結果，横断的データの分析の結果と同様に，1年時の教職に対する内的な理由・動機は，教師効力感の向上や教師アイデンティティの獲得と関連した。教職への職業的憧れも効力感やアイデンティティと関連した（2)。

教職課程の前半が終了した 2 年生における動機づけ要因と効力感・アイデンティティの関連から，教職課程の履修を通して，教師としての高い適応感と関連する教師効力感やアイデンティティを発達させるには，教職への単なる憧れや他者からの勧めという外的な志望理由では不十分であり，子どもが好きであり，子どもとの生活に充実感を感じ，また教師の職業的な重要性を認識するなど，子どもに目を向けた理由や教職への価値の認識が重要であることが示唆された（3)。さらに，この時期の履修動機において外発的動機づけが低い学生は，教職課程履修前半と比較して課程修了時の教師効力感や教師アイデンティティをより高めることから，外発的動機づけを抑制することもまた重要であることが示唆された（4)。

教育実習の影響を検討した結果，教育実習前に持っている教職課程に取り組む内的な理由や職業的価値は，教育実習後の効力感やアイデンティティを促進し，2年時の傾向と同様であった。一方で,「自己成長」は生徒指導への効力感や教師としての持続性と負の関連が見られた。教職課程履修に内発的に動機づけられていたとしても，教育実習を通して授業実践・学校運営・子どもや保護者への対応・その他の雑務に取り組む教員を見たり，直接経験したりする中で，教職課程で学習した知識やスキルと教育現場の実情との乖離を実感し，職業として生涯続けていくことに不安を感じた可能性が考えらえる（5)。

教職課程登録初期，各種実習実施前，および各種実習実施後の横断的・縦断的分析の結果，教職課程の初期段階における志望理由や履修動機が教師効力感や教師アイデンティティの変化の予測因となることが明らかとなった。特に，教職課程の初期の段階から，子どもとの積極的なかかわりを通した子どもとの関係性構築や教職・教育の社会的意義の認識を促進する支援を積極的に大学が行うことが，教職課程への自律的な動機づけの促進や教師として必要な資質能力向上につながるのではないかと考えらえる。この点については，教職に就いた卒業生へのインタビューにおいて，教職継続理由として子ども志向が重要であるとの指摘とも一致する。さらに，教職課程への外発的な動機づけの抑制につながる手立ての検討も重要となる。一方で，内発的に学習に動機づけられていたとしても，介護等体験や教育実習を経験することで，それが教師効力感やアイデンティティの発達につながらない可能性があることは，教職課程の最終段階での実践実習だけでなく，より早期の段階からの実習経験の機会を設けるなど，今後の教育内容の再検討の必要性を示唆している。これらの結果を反映し，教職課程履修状況や学習状況を記録するｅポートフォリオにおいて教職志望理由・履修動機および各学年における教師としての資質能力の獲得程度を可視化するような改修に取り組んでいる。このようなｅポートフォリオの構築は，教職課程履修学生への効果的な支援につなげられ，教員養成において大きな意義があると考える。

本研究では，教職課程の初期段階における履修動機が教師としての資質能力の発達の予測因となることが明らかとなったが，調査対象者に限界があるため，今後は全学的な縦断的調査が必要となる。　また，教職課程の履修中止学生の傾向も含めて，さらに継続した調査・分析が必要である。

引用文献

Black, A. E., & Deci, E. L. (2000). The effects of student self-regulation and instructor autonomy support on learning in a college-level natural science course: A self-determination theory perspective. Science Education, 84, 740-756.

藤原正光（2004)．教師志望動機と高校・大学生活－教員採用試験合格者の場合－　文教大学教育学部紀要，38，75-81.

松井賢二・柴田雅子（2008)．教師の進路決定プロセスと職業的アイデンティティとの関連　新潟大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践総合研究』，7，141-159.

Schwarzer, R., Schmitz, G. S., & Daytner, G. T. (1999). The Teacher Self-Efficacy scale [On-line publication]. Available at: http://www.fu-berlin.de/gesund/skalen/t_se.htm

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 田中　希穂	４．巻 11
２．論文標題 教職課程履修学生の実習体験前の教師効力感と教師アイデンティティ	５．発行年 2022年
３．雑誌名 同志社大学 教職課程年報	６．最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00028901	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田中 希穂	４．巻 9
２．論文標題 教職課程への動機づけが教育実習後の教師効力感・教師アイデンティティにおよぼす影響	５．発行年 2020年
３．雑誌名 同志社大学 教職課程年報	６．最初と最後の頁 21-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/pa.2019.0000000526	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田中希穂・児玉祥一・沖田悟博・大橋忠司	４．巻 8
２．論文標題 シンガポールの学校教育におけるグローバル人材育成	５．発行年 2019年
３．雑誌名 同志社大学 教職課程年報	６．最初と最後の頁 48-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/pa.2018.0000000380	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田中希穂	４．巻 7
２．論文標題 学習動機と自己効力感が学習行動におよぼす影響	５．発行年 2018年
３．雑誌名 同志社大学 教職課程年報	６．最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/pa.2018.0000000024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 田中 希穂
２．発表標題 教職課程への動機づけが教育実習後の教師効力感・アイデンティティにおよぼす影響
３．学会等名 日本教育心理学会第61回総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田中希穂
２．発表標題 教職課程初期段階の学生の動機づけと教師効力感・教師アイデンティティの関連
３．学会等名 日本教育心理学会第60回総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 田中希穂
２．発表標題 教職課程履修学生における動機づけ要因の発達的変化
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kiho Tanaka, Hiroyuki Ueda
２．発表標題 Developmet of student teachers' motivation, teacher-efficacy, and teacher-identity during teacher-training course
３．学会等名 7th International Self-Determination Theory Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 田中希穂
２．発表標題 教職課程履修動機の違いが教師効力感・教師アイデンティティの発達に及ぼす影響
３．学会等名 日本心理学会第87回大会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計1件

１．著者名 金子邦秀（監修）　伊藤一雄・児玉祥一・奥野浩之(編著)	４．発行年 2018年
２．出版社 サンライズ出版	５．総ページ数 157
３．書名 新しい教職基礎論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中瀬　浩一 (Nakase Koichi) (20369309)	同志社大学・免許資格課程センター・教授 (34310)	
研究分担者	大橋　忠司 (Ohashi Tadashi) (20755384)	同志社大学・免許資格課程センター・教授 (34310)	
研究分担者	奥野　浩之 (Okuno Hiroyuki) (80552067)	同志社大学・免許資格課程センター・准教授 (34310)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関